

市民文芸

短歌

令和六年度阿南市文化祭
秋季短歌誌上大会選

入選

炎天を怯まず進むコンバイン 昔背負った息子
頼もし 里和倭己子
久しぶりに会いて手を取り幼な名で呼び合う二
人九十歳の坂 勢井 恒子
もう締める事なき夫のネクタイは新聞括りて華
やかなりし 吉永賀代子
「鈴屋」は本居宣長の書斎吾の部屋にも鈴をか
けたり 澤田 素子
住み慣れし七十年の我が家は瓦礫となりてダン
プが運ぶ 宮本久美子
窓にさす眠れぬ夜の月あかり少し欠けたる我を
映しぬ 吉田 文恵
新米のあつあつおにぎり塩にぎり母の掌でこ馳
走となる 庄野 悦子
何時の世も戦火収まる気配なし無辜の民革命ぞ
哀し 山野 賢治
ひたすらに未来を歩むわたくしの九十四年の歳
月に謝す 佐々木夫美
考妣の昔語りは戦時下の儉しいながらすてきな
青春 水口 明美
「もう少し耐えて下さい」この暑さ冷たい水を
夫のお墓に 青木 弘子
鎌にぎる吾に「足手まといじゃ 帰れ」灼熱の
太陽よ 夫の労りよ 岡久 利永
秋の陽のつよく差し入る霊園に母の愛でたる紫
苑を供う 竹田 雪湖

俳句

阿南市俳句連合会選

猫神の鈴鳴りづめに梅つぼむ
きらめきの星こぼれくる枯木立
山茶花のひとつ咲かせてひとつ落つ
初春や光り新たに庭掃除
姫の恋坊主の恋や歌留多会
逆光の大師の像や寒桜
初売りの書店に賞の候補作
寒椿散りゆく朝に訃報聞く
少年やエイと一振り寒稽古
ポツポツと薔薇の冬芽の紅とがる

岡久 玲子
東條 明宏
前原 真理
東 良子
駒木 幹正
田中 栄子
横井 知昭
鳥海 勇二
多田紀久代
大西 裕子

川柳

阿南川柳会 選

心血を注ぐ我が家の跡取りに
クリスマス孫と一緒にケーキ待つ
宇宙から跳び出しそうなかいかい月
今日もまた命あつての六千歩
知らんぷりしてあげるのも思いやり
荒海を丸ごと煮込む漁師鍋
あと少し頑張ろうぜと年女

多田紀久代
二階千代美
西田 修身
橋本 征介
渡邊ろまん
神野 鈴代
鈴木レイ子

一般応募

一期一会心も洗う遍路旅
デイケアで一の楽しみ露天風呂
趣味一つ持って世界が広くなる

島尾美津子
泰地 重美
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

林檎

原 美智子

蜜果人知他國生 蜜果人ぞ知る 他國の生まれ
芳香紅玉味方清 芳香の紅玉 味方に清し
北歐希臘多神話 北歐希臘 神話多く
古往今來又惹情 古往今來 又情を惹く
※古往今來―昔から今まで

満濃池

折野 博子

星影千年激瀾浮 星影千年 激瀾として浮かぶ
長堤灣曲満濃湫 長堤 灣曲 満濃の湫
眼前灌漑大師業 眼前の灌漑 大師の業
水遶田園潤讃州 水は田園を遶りて讃州を潤す
※大師―弘法大師 讃州―讃岐

春遊

池田 行子

一路春堤江水邊 一路 春堤 江水の辺
櫻花撩亂柳含煙 櫻花撩亂 柳は煙を含む
鶯歌蝶舞東風裏 鶯歌い蝶舞う 東風の裏
香雪紛紛落碧連 香雪紛紛として 碧連に落つ
※春遊―春に郊外などに出かけること
香雪―雪のように散る花びら

